

指導方法等の改善計画について 〔国語科〕

坂町立小屋浦小学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
76.2%	67%	65.6%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- 平均正答率は76.2%で、全国平均と比較すると10.6p上回っている。領域ごとに比較すると、『話すこと・聞くこと』において+3.8p、『書くこと』において+1.5p、『読むこと』において+13.4pであり、学力はおおむね定着していると見られる。無回答率は0%であり、全員が正答率40%以上を達成した。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
 昨年度は、発問の意図を捉えて解答を導き出したり、問題文の大事な箇所に関線を引いたりする学習指導を行い、概要を捉えながら適切な箇所を読み取ることに繰り返し取り組んだ。本年度『読むこと』において、県、全国平均より上回ったため(80%)、有効な手立てであったと考える。しかし、昨年度と同様に、複数の資料を読み取り条件(書き方についてではなく内容について)に合わせて書くことに課題が見られたため、引き続き思考力や表現力を高める具体的な取組が必要であると考えている。

重点課題

- ・自分が選んだ方法の具体的なやり方は考えているが、問題文に書かれている問題点に対する解決策になっていない。[1(四)40%](坂町 52.7%)
- ・問題文に登場する人物になりきって、文章についての良さを書く必要があったが、内容についての「6年生としてがんばりたいこと」の良さだけを書いている。[3(二)40%](坂町 41.8%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・説明文では、問いの確認・問いに沿った読み取りの仕方の指導をスモールステップで行い、パターンに慣れさせる。(2つの文章を条件に照らし合わせながら比較する等)
- ・自分たちが書いた文章をお互いに読み合っ、内容についての良さや改善点を伝える学習を行う。
- ・文字の制限を指定して振り返りを書く等、複数の条件に合わせて書く経験を積み重ねる。(短時間学習や授業始めなどの短い時間で、短文や日記を作成する等)
- ・条件に合わせて書かれている文章を選ぶ経験を積み重ねる。
- ・読書量を増やす。(長い文章に触れる機会を増やす)
- ・長い文章に対して、少ない問題数のパターンであるプリント学習に取り組む。

指導方法等の改善計画について

〔算数科・数学科〕

坂町立小屋浦小学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
76.6%	64%	63.2%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- 平均正答率は76.6%で、全国平均と比較すると13.4p上回っている。領域ごとに比較すると、『数と計算』において+11.9p、『図形』において+8.5p、『変化と関係』において+11.2p、『データの活用』において+11.3p、であり、学力はおおむね定着していると思われる。無回答率は0%であり、全員が正答率55%以上を達成した。
- 昨年度の課題への取組の成果と課題
昨年度は、図形の問題を読み解くことに難しさが見られたため、図形の公式に触れさせ定着を図り、既習の考え方と関連させながら正しく活用することができるように、丁寧に指導を行った。本年度『図形』において、県、全国平均より上回ったため(72.5%)、成果があったと考えられる。一方で、今年度は『変化と関係』において、普段の生活の中で割合や濃度に関する知識や体験が少ないことが明らかになったため、算数の問題場面と実際の生活とをつなげる活用を重視した学習展開が必要であると考えます。

重点課題

- ・水溶液の割合の問題で、ジュースの量が $1/2$ になると、濃度も $1/2$ になると答えた児童がいた。[2(3)30%]
(坂町 26.4)
- ・図形のプログラミングで、間違っただけの命令を一カ所見付け、正しい命令を2択から選び、正しい内容を記述する問題において、正しい選択肢を選んだ児童は90%であったが、命令の内容の記述を間違えていた。[4(1)50%]
(坂町 44.0)
- ・概数を用いてケーキの代金を最低の見積もりで算出する問題において、四捨五入の操作をして多く見積もってしまった児童がいた。[1(4)60%] 正しくは、個数も代金も、一の位を切り捨ててかけ算をする。(坂町 41.8)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・普段の生活の中で、割合や濃度に関する体験を積み重ねていく。また、理科の学習内容ともつなげ、知識を正しく理解できるよう復習していく。
- ・角度について、内角と外角を合わせて180度となる感覚を育てる。図形に触れる機会が少ないため、短時間学習を有効に使い、定着を図る。
- ・Web上のプログラミング『スクラッチ』やICT教材『ピョンキー』を使い、プログラムを体験させる。
- ・予め、間違いのあるプログラムを提示し、どこを直していけばよいかを考える機会を設ける。または、ドローンなどの操作を通し、自分の動かしたい軌道に対して試行錯誤する場を大切にする。
- ・四捨五入が必要な場面と、必要ではない場面、少なく見積もる場合と、多く見積もる場合など、普段の生活とつなげて考え、理解できるようにする。
- ・低学年のうちから学んだことを生活に生かす学びを継続的に行う。

指導方法等の改善計画について

〔理科〕

坂町立小屋浦小学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
81.3%	66%	66.3%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

○平均正答率は81.3%で、全国平均と比較すると15p上回っている。領域ごとに比較すると、『エネルギー』において+18.4p、『粒子』において+7.6p、『生命』において+15p、『地球』において+9.4%であり、学力はおおむね定着していると見られる。無回答率は0%であり、全員が正答率45%以上を達成した。

重点課題

- ・鉄棒に付着した水の粒は「水蒸気」と答えなければならないが、水の三態に対する理解が不十分で、特に「水蒸気は冷やされると水滴になる」ことが定着していなかった。[4(4)40%] (坂町 62.6)
- ・日光の直線を問う問題で、「日光が直進すること」は理解していると思われるが、実際の生活場面でどうなるかについては経験や実験が必要である。[3(1)40%] (坂町 31.9)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・実験や観察の後の考察を自分で書くことに取り組みさせたが、さらに取り組みを進め一層力を伸ばしていく。
- ・学習したことは時間の経過とともに忘れてしまったり、曖昧になったりするので、定期的に振り返り、定着を図っていくことが必要である。授業の始めに過去の学習内容についてのクイズを行っているが、それをさらに充実させていく。
- ・学力に課題のある児童は、学習時の定着はもちろん、学習後時間が経過した後の定着も難しい。これらの児童は実験や観察においても、手順や実験方法に対する理解が不十分であることが多く、その活動に対しても消極的な場合が多い。実験や観察はできるだけ個人でさせる機会を増やし、器具を扱う機会を増やしていくことが大切だと考える。現在も、実験の結果や考察は個人で行う取り組みを続けており、その成果に期待したい。

指導方法等の改善計画について〔質問紙調査〕

坂町立小屋浦小学校

(1) 生活・学習

児童・生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
質問番号（11）難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。（肯定的回答 83.4%） 質問番号（17）自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。（肯定的回答 83.4%）	<ul style="list-style-type: none">・うまくいなくても次への良い経験であり、改善策を考える機会であることが実感できるように、日々の学校生活で声かけを行い、意図的に学習の単元を仕組む。・国語科の話し合うことについて、学年ごとの身に付けさせたい事柄を掲示し、①相手の発言を受けて話をつなぐ。②互いの意見の共通点や相違点に着目する。③互いの立場や意図を明確にしなが話し合う。ことができるよう習慣付けていく。

(2) 教科

国語 児童・生徒の回答についての課題（現状値） 質問番号（49）国語の勉強は好きですか。 （肯定的回答 本校 58.4% 広島県 59.7%）	授業改善の方向性や具体的な取組 <ul style="list-style-type: none">・引き続き、漢字や文法の習熟を図り、事実や意見を分けて書くなどの練習や言語を増やす取組なども取り入れ、苦手意識を軽減し、自信をもたせる。
算数・数学 児童・生徒の回答についての課題（現状値） 質問番号（55）算数の授業の内容はよく分かりますか。 （肯定的回答 本校 83.4% 広島県 80.1%）	授業改善の方向性や具体的な取組 <ul style="list-style-type: none">・図形に関する単元は日常生活で触れる機会が少ないため、短時間学習を有効に使い、定着を図る。ICTを効果的に活用し、作図などの手順が視覚的に分かるようにする。・低学年から具体物を使った操作活動を取り入れ、多面的に捉える素地をつくっていく。
理科 児童・生徒の回答についての課題（現状値） 質問番号（66）将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。 （肯定的回答 本校 16.7% 広島県 25.5%）	授業改善の方向性や具体的な取組 <ul style="list-style-type: none">・91%の児童が、「理科の授業で学習したことは社会で役に立つ」と答えている。キャリア教育の視点から、様々な分野の職種を知る機会を設ける。